



◆生育状況について

1. 生育は、昨年より7～5日程度早い状況(園によりバラツキがある)
2. 新梢・徒長枝が伸びているので、適正に整理する。
3. 乾燥が続いた場合は適時にかん水を行う。
4. 樹体が日焼けで傷まないように保護する(新梢を置く・ワラを巻くなど)

《プルーン・すもも》

◆スモモヒメシンクイの防除対策について《重要》

1. 薬剤防除: 定期防除は、散布間隔を守りしっかりと散布ムラなく、量をしっかりと掛ける。
2. 耕種的防除: 園内をこまめに巡回し、樹上の被害果・落果した被害果をすべて見つけ処分する。
3. 処分方法
 - ①被害果を園外に持ち出し、7日以上水漬けし果実中の幼虫を殺す。
 - ②土中に埋める場合は、1m以上深く埋める。浅いと羽化し、再び発生するので注意する。
 - ③厚い肥料袋等に被害果を入れ、羽化成虫が外に飛び出さないよう口を固く結ぶ。レジ袋等は不可。
 - ④放任園や自家用で、防除しないプルーン・すもも等発生源を伐採してもらう。

4. 被害果の特徴

- ①アメをだす。 ②果面に地図を描く。 ③果面が黄色や紫色に変色。 ④落果している。

※なお、市場に出荷した生産物に被害果が混入し、出荷者が確定できるクレームがあった場合は、例年と同様にその出荷者のクレームとなった数量の精算をゼロとすることになっております。荷造りに際しても厳重に選果して出荷をお願いします。

◆第10回薬剤散布について

1. 散布時期・・・7月5日(水)～9日(日) 実際散布日記入 月 日
2. 調 合 量・・・水1000 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
(展着剤まくぴか)	10mL	—	—
サムコルフロアブル	40mL	シンクイムシ類	3日前まで
ベルコートフロアブル	50mL	灰星病	3日前まで

※収穫中又は収穫に近い品種には、薬液が飛散しないよう注意し散布する。

◆第11回薬剤散布について

1. 散布時期・・・7月15日(土)～19日(水) 実際散布日記入 月 日
2. 調 合 量・・・水1000 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
(展着剤まくぴか)	10mL	—	—
(フルーツセイバー)	66mL	灰星病	前日まで
㊤バリアード顆粒水和剤	50g	シンクイムシ類	前日まで

※収穫中又は収穫に近い品種には、薬液が飛散しないよう注意し散布する。

3. 留意事項

- ①降雨が多い場合は灰星病対策として、フルーツセイバー1,500倍を加用散布する。

◆第10・11回薬剤散布共通事項

1. 散布量…10a当り⇒400ℓ
2. 収穫直前の品種は、定期薬剤散布に代えて別記の収穫前薬剤散布を行う。
3. 「収穫前日まで」とは収穫する24時間前までに散布が終了することを意味する。
4. 果実の汚れを防ぐため、なるべく細霧にして、すぐに乾く時間帯で散布する。
5. 通常、この時期からは農薬による汚れや果粉溶脱を軽減するため展着剤を使用しないが、シンクイムシ類・灰星病の発生が多く、薬液をしっかりと付着させたい場合は、展着剤を「まくぴか」10,000倍を使用すると、均一に付着しやすくなり、乾きが早まるため、液だまりが減少する。
6. アメリカシロヒトリは巣網のうちに捕殺するか、焼却処理する。
7. ハダニ類の発生が心配される場合はダニオーテフロアブル 2,000倍(水 100ℓ 当り 50ml・収穫前日まで・年間1回まで)を加用散布する。

◆ナシヒメコン第2回取り付けについて 実際設置日記入 月 日

7月上中旬が設置時期となりますので、忘れずに設置下さい。

10a当たり50本(スモモヒメシンクイ対策)

◆収穫前薬剤散布について ※収穫直前の品種に行く。

1. 散布時期…収穫開始2日前 実際散布日記入 月 日
2. 調合量…水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
オンリーワンフロアブル	50ml	灰星病	前日まで
(㊟スカウトフロアブル)	50ml	シンクイムシ類	前日まで

3. 散布量…10a当り⇒350ℓ
4. 留意事項
 - ①「収穫前日まで」となっている農薬は、収穫24時間前までに散布が終了する事を意味する。
 - ②シンクイムシ類の発生が心配される園は、スカウトフロアブル 2,000倍を加用散布する。スカウトフロアブルに代えて、ディアナWDG5,000倍(水 100ℓ当り 20g/収穫前日)を使用してもよい。

◆プルーン早生種・すもも収穫講習会及び出荷目揃い会

・プルーン3Kバラ荷造り講習会の開催について

開催日	曜	開催時間	開催場所	担当
7月10日	月	午前 10:30	西部流通センター	寺澤
			若穂果実流通センター ※雹害果荷受対応も実施致します。	松沢・松橋

※講習会以降が出荷始めではありません。適熟になったものは、講習会以前でも荷受致します。

また、講習会以降でも、未熟な場合は、適熟になってからご出荷下さい。

※川中島地区・更北地区については果樹技術員までお問い合わせください。

※プルーン3Kバラ出荷申込書は、講習会にて配布いたします。

《あんず・うめ共通》

◆礼肥の施用について

施用時期	肥料名	施肥量	実際施用日記入
7月中旬(収穫後)	有機専科	10a当り2袋	月 日

※樹勢の中庸～弱めの樹に施用する。(強勢な樹や若木は見合わせる。)

◆コスカシバ対策について

杏の場合は6～10月まではっきりしたコスカシバの最盛期がない。

被害樹は樹勢が弱まったり胴枯病が発生しやすくなる。

樹脂と虫糞の混ざっている箇所を削り補殺するか、木づちで叩いて潰す。(雨上がりが良い)

《なし》

◆第9回薬剤散布について

1. 散布時期・・・7月12日(水)～16(日) 実際散布日記入 月 日

2. 調合量・・・水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展着剤	10mℓ	—	—
キノンドー顆粒水和剤	100g	黒斑病・輪紋病	3日前まで
スミチオン水和剤 40	100g	シンクイムシ類・ハマキムシ類	有袋 14日前まで 無袋 21日前まで

3. 散布量・・・10a当り⇒棚栽培450ℓ／立木栽培500ℓ 以上

4. 留意事項

①有袋栽培の場合はスミチオン水和剤に代えてサイアノックス水和剤 1,000 倍(水 100ℓ 当り 100g・有袋収穫 7 日前まで・年 3 回以内)を使用してもよい。

◆南水の加工について

南水の加工用の荷受けを本年も行う予定です。

本年は着果量が少ないので、変形果・スレ果等でも残して着果量の確保を図るようにする。

最終的に規格外になる場合は加工用として荷受けできます。

基準 大きさ100g(直径4cm)以上、変形・スレなどはOKです。

腐敗しているものなどは不可となります。

今年の見安価格は35円/kgです。詳しくは講習会にてお知らせいたします。

《オウトウ》

◆第6回薬剤散布について

1. 散布時期・・・収穫直後 実際散布日記入 月 日
2. 調 合 量・・・水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
展 着 剤	10ml	—	—
コ ロ マ イ ト 乳 剤	100ml	ハダニ類	7日前まで
Ⓜダイアジノン水和剤34	100g	カイガラムシ類	14日前まで
オーソサイド水和剤80	125g	褐色せん孔病	3日前まで

3. 散 布 量・・・10a当り⇒500ℓ

4. 留意事項

- ①ハダニの発生が増加する時期である。農薬がよくかかるように夏季剪定後に行う。
- ②オーソサイド水和剤は、もも・野菜などに飛散しないように注意する(残留農薬基準が厳しい)
- ③ハダニの発生を抑えるために、収穫後できるだけ早く雨よけ資材を除去する。

◆夏季せん定について

1. ノコギリを使うような大枝の剪定は、例年では収穫後の梅雨期間に行うっているが、梅雨が早く開けたので、切った場合は切り口が乾燥する前にトップジンMペーストを塗布する。
または降雨が続く日に切除する。
2. この時期に行うことにより枯れ込みを 방지、花芽の充実を図ることができる。
3. 太い枝を切る場合は幹から30～50cm 離して切る。
4. 落とす枝葉は、3割程度とする。それ以上落とすと樹勢低下を招く。

◆礼肥の施用について ※強勢な樹や若木は見合わせる。

施用時期	肥料名	施肥量	実際施用日記入
7月(収穫後)	有機専科	10a当り2袋	月 日

《栽培に関する問合せ》

寺澤 (篠ノ井西部・信田) : 080-1188-5229 / 外谷 (篠ノ井東部) : 080-8048-6602

松橋 (松代) : 090-4816-6297 / 佐藤 (川中島) : 090-7179-9866

根津 (更北) 080-1203-8576 / 元田 (若穂) 282-2002

吉澤 (全域・編集担当) : 090-2543-0365 / 営農販売部 (本所) : 292-0930

○果樹のアドバイザー (流通センター長兼務)

松澤 (若穂) 080-1191-5166 / 伊藤 (篠ノ井東部) 080-2239-6816

松坂 (篠ノ井西部) 080-1188-4131

《販売に関する問合せ》各流通センター・共選所 / 営農販売部 (本所) : 292-0930

《資材に関する問合せ》各JAファーム・営農資材センター・経済部 / 農業資材課 : 299-3311